

田んぼで触れる 生き物と自然

6月24日(日)、大崎市田尻で『田んぼの学校～生き物観察会～』を開きました。参加したのは関東から移住してきた方、仙台市内在住の親子を中心に18名。佐々木陽悦さん(エコファーマー宮城県認定第1号)を講師に迎え、ハウスの中で野菜のもぎ取り体験を行いました。太陽をいっぱい浴びたキュウリやトマトをその場でおいしくいただきました。

当日は幸いにも好天に恵まれ、田んぼで元気に泳いでるメダカやカエルに会えました。最初はおそろおそろ生き物を観ていた子どもたちも親御さんのサポートで、直に生き物に触れることができるようになりました。この生き物は何という名前?どうやって育てるの?興味津々の子どもたちの質問に、講師の佐々木さんは熱心に答えていました。

肥沃な田んぼには微生物がたくさんいて昆虫や爬虫類、鳥類もたくさん訪れます。ドロソコの田んぼの中で食物連鎖を直に感じ取っている子どもたちも多かったのではないのでしょうか。

最後に、昨年『田んぼの学校』に参加し、絶滅危惧植物・水あおいを持ち帰った方から写真をいただきました。家庭で育てて花を咲かせたそうです。田んぼの学校での体験を忘れずに、家庭でも植物を大切にしてくださいることを嬉しく感じました。参加者からは『いろんな生き物がいて大人も子どもも楽しめた。』『普段なかなか自然に触れ合う機会がなく、貴重な体験だった。』という感想を寄せていただきました。



MELON20周年をめざせ!

50人リレートーク



第17回目の執筆者
遠見清二さん
(北上川・運河交流館勤務)

石巻市に生まれて北上川を見て育ち、現在、市内水押の北上川・運河交流館で川と運河の案内人をしています。また、石巻千石船の会、野蒜築港ファンクラブ、北上川流域連携交流会などのメンバーとして河川などに関わる活動を続けて20年近くなります。

運河・交流館は平成11年、国土交通省の北上川流域の水辺プラザの1つとして、北上川と北上運河や世界の運河を紹介するとともに交流・学習の場、情報の受発信拠点として開館した施設です。北上川はこの10年間、住民の河川に対する関心の高まりとともに各地に「水辺プラザ」ないしは「水辺の楽校」などの親水拠点整備が進み、流域最大の北上川学習交流館(一関市)とともに、当館は北上川下流側の拠点となっています。

北上川は、NPO法人北上川流域連携交流会など約60の「市民活動団体」と市町村行政が組織する「北上川流域市町村連携協議会」が車の両輪のごとくに、それぞれが独自にまたは両者の連携の基に活動や事業を活発に展開する元気あふれる川です。

この活動を支えるキーワードが「交流」と「連携」です。県境を越えた人と人、地域と地域の交流を通じて共通認識を深め、ネットワークを構築し、流域全体を視野に入れた連携、即ち協働作業で各種の事業を実践してきました。近年は、全国の河川や運河・閘門との流域を越えた交流が見られるようになり、流域諸団体や類似施設との連携強化はもとより、交流の拡大に伴う新たな対応が求められてきています。

次回執筆者紹介

木村成忠さん(若宮丸漂流民の会 会長)
江戸時代、日本人初の世界一周を果たした石巻の千石船若宮丸の漂流民を顕彰する会の会長として、日本とロシアを駆け回り新史実の掘り起こしに尽力する。

